

2016 年度 第 1 回郡山市総合教育会議 議事録

【日時】平成 28 年 6 月 15 日(水) 午後 3 時～午後 4 時

【会場】郡山市役所秘書課 第二応接室

- 【次第】
- 1 開会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 協議事項
 - (1) セーフティプロモーションスクール手法によるカイゼン活動
 - (2) 2015 年度郡山市立中学校 3 年生英検 IBA 受験結果
 - (3) 持続可能な開発のための教育(ESD)
 - (4) その他
 - 4 閉会

【出席者】7 名(敬称略)

郡山市長	品川 万里
教育委員会委員長	阿部 晃造
同委員長職務代理者	阿部 亜巳
同 委員	今泉 玲子
同 委員	太田 宏
同 委員	藤田 浩志
同 教育長	小野 義明

【事務局】13 名

政策開発部次長	佐久間 隆博
政策開発課長	羽田 康浩
政策開発課政策推進係長	齋藤 健一
教育総務部長	齋藤 芳一
教育総務部次長兼総務課長	畠中 秀樹
総務課総務管理係長	古川 誠
学校教育部長	柳沼 文俊
学校教育部次長	渡辺 伸市
学校管理課主幹兼管理主事	小山 健幸
学校教育推進課長	原 真児
学校教育推進課主幹兼指導主事	半沢 一寛
学校教育推進課長補佐	佐藤 伸司
教育研修センター所長	村上 文生

【議事】

1 開会

2 市長あいさつ

【品川市長】できるだけフリーにお話しいただきたい。私も気が付いたものを素材としてお配りしています。まずは教育委員会から3点、既に委員の皆様でご議論されているようでしたら教育長からご説明ください。

3 協議事項

【小野教育長】

《協議事項についての説明及び質疑》

(1) セーフティプロモーションスクール手法によるカイゼン活動

本市の公立小・中学校におけるセーフティプロモーションスクール（SPS）の取り組みとしては、全ての小・中学校において不審者を想定した避難訓練を実施している。また、万が一不審者等が学校に侵入したことを想定し、非常通報装置を全学級に設置しているほか、学校来校者については名簿記載のうえ名札着用を義務づけている。さらに、教員向けに防犯研修を実施するとともに、サスマタを全ての小・中学校に配備している。地域と連携した防犯への取り組みについては、こども見守り隊活動やこども110番の家事業を推進している。

(2) 2015年度郡山市立中学校3年生英検IBA受験結果

結果については資料の通り。本市では児童・生徒の英語力向上を目指し、昭和62年から語学指導外国人を雇用するとともに、平成17年度には英語教育特区を申請し、英語教育表現科を正式な教科に位置づけるなど市独自の英語教育に取り組んでいる。このような中、昨年度はちょうど英語教育特区の申請から10年経過の節目の年であると同時に、国においても小学校英語の教科化を議論している状況にあることから、今後の英語教育の在り方を検討する材料として、昨年度、英検IBAを実施した。平成28年度も昨年度同様、中学3年生向けに実施する予定である。なお、平成27年度は小学生向けに英検Jr（英検IBAの小学校バージョン）を抽出15校において実施し、正答率を把握している。英検Jrについては、全国的にも実施事例は少ないので今年度は実施しない方針である。

(3) 持続可能な開発のための教育(ESD)

市内各小・中学校において、様々な観点から教育活動が実施されているが、これらはすべてESDの観点を持っているものと考えている。授業、生徒会活動、道徳の授業、集団活動等を通して、ESDのコンセプトである「身近な暮らしを通して教育を推進する」という理念を学んでいる。今後も引き続き、人

権教育、環境、郷土文化歴史、食育、防災、エネルギーなど特色ある取り組みを推進していきたい。

【品川市長】SPSについて、すでに独自に取り組んでいるのか。

【小野教育長】本市でもすでに様々なセーフコミュニティの取り組みを実施しているが、小・中学校でもセーフティスクールの取り組みを推進しており、今年4月の校長会議・5月の教頭会議において議題として取り上げている。

【品川市長】各委員から今後、SPSを推進することの是非、留意する点などご意見を。

【阿部職務代理者】

市では防犯ブザーを配布し小学生の防犯に取り組んでいる。一方、学校においては「いかのおすし」を活用した防犯教育を実施している。また、保護者に対しても「まち comi メール」を活用し、不審者情報等を配信しており、これらの取り組みは本市全体に浸透していると考え。こうした学校の取り組みは、子どもたちにも伝わっていると考え。

また、来月から夏休みに入るが、学校を離れたところでの危機管理について、「まち comi メール」などを活用し、保護者に注意を促してほしい。刑事弁護で薬物犯罪を担当することもあるが、多くの市民が利用するショッピングセンターなどが意外と薬物売買の現場だったりする。子どもが巻き込まれる可能性もあるので、学外についても積極的な情報発信に取り組むべき。

【太田委員】防犯に関する問題は、市全体で取り組まなければならないと考える。不審者等はどこにいるか分からないので、行政や警察が把握している情報を市民も共有できればと考える。例えば病院でもサスマタを配備するなど、常に危機管理の意識は必要だと認識している。「セーフティシティ郡山」の精神で、全市を挙げて防犯活動を推進し、犯罪の発生を未然に封じ込むことが重要であると考え。

【品川市長】セーフコミュニティも町内会別ではなく学校区で見ること必要かもしれない。

【太田委員】うちの病院の看護師も市が取り組んでいるセーフコミュニティについて勉強し実践しているようなので、市の発信する情報も浸透していると考え。

【品川市長】英検 IBA はどんな手法でやっているのか？

【学校教育部】ペーパーテストを実施している。

【品川市長】全員が受けているのか？

【学校教育部】中学3年生全員がこのテストを受けている。

【品川市長】今回協議した案件については、教育委員の皆様でさらに議論を深め、学校教育がより充実したものとなるよう御尽力いただきたい。また、必要に応じて、市長部局へ御提言いただきたい。

(4) その他(資料提供)

【品川市長】最近新聞等を見た記事や市長会でテーマごとに協働で進めている取組として、例えば全国 ICT 市長会議など、そういった資料を提供させていただく。

《提供資料一覧》

- ① 全国 ICT 市長会議配布資料
- ② 学校部活動一覧表
- ③ 小中学校施設耐震補強の進捗状況一覧表
- ④ 学級編制の適正化
- ⑤ 子ども版地域包括支援(ネウボラ)
- ⑥ 教育の強靱化
- ⑦ 私塾の役割
- ⑧ 放送大学の活用
- ⑨ 保育所保育指針改定
- ⑩ 教育テレビ(Eテレ)の活用

【小野教育長】教育の強靱化については、2020年の学習指導要領改訂に向け国において着々と審議を進めているところである。このような中、本市の小中学校においては、2020年の学習指導要領のポイントとなるアクティブラーニングの導入等に対応するため、教育課程の編成や質的改善に向けた授業改善に取り組んでいる。

保育所保育指針の改定については、3歳児から保育所でも教育的内容に取り組んでいくという内容の改定である。現在、本市では、幼稚園・保育所・小学校が連携した幼保小連携事業を実施しているので、法改正の状況を把握しながら、事業内容の拡充を検討したい。

寺子屋郡山については、勉強を教えるスタッフも増え、社会や理科なども指導できるようになった。同様の事業として実施している教育環境パワーアップ事業と併せて教育環境の充実に取り組んでいる。こうした地域活動をされている方々の協力は、教育環境の充実を図る上で欠かすことのできないものであると考えるので、地域人材活用を積極的に進めていきたい。

各委員の皆様からもお話しいただきたい。

【阿部委員長】先日出席した教育長会議の中で、教育経済学について説明を受けた。

これは、教育を経済学的に分析する応用経済学の一分野のようだが、例をあげると、朝食を食べる子、新聞を読む子、読書をする子は、これらをしない子より学校の成績が良いなどということを学問的に立証したもののようだ。我々が考えなければならない重要課題の一つとして、学力の底上げが挙げられるが、教育経済学の研究結果を逆さから見ることによって、その対策が見える場合もあるのではないかと考える。

【品川市長】ビッグデータは相関関係だけで因果関係までは言及されない点に注意が

必要。

【阿部委員長】データは次に何をしたらいいのかという手がかりにはなると思う。

【今泉委員】寺子屋の指導スタッフが増えたのはうれしいこと。寺子屋の役割としてもう一つ期待したいのは、核家族化が進む中、寺子屋の先生にはおじいちゃんやおばあちゃんの役割を担ってもらえるとありがたいのではないか。

【品川市長】今は高齢者も元気だから、何人の高齢者が子ども達を支えているかという逆転の発想も必要ではないか？保育所は女性の保育士が多いから男性が行くと重宝がられる。

【太田委員】学校評議員に関して、評議員の皆さんが地域の問題や課題をしっかりと把握し、学校と情報の共有が図られれば、様々な問題が解決するのではないか。また、学校評議員は、校長先生の考えに柔軟に対応できる方が良いと考える。

【阿部委員長】今の御意見は、コミュニティスクールの発想に近いのではないか。地域を巻き込んだ学校経営は非常に良いこと。

【藤田委員】安子島の放課後地域子ども教室では、その場で宿題を終わらせてみんなで遊んでいるが、その際、地域ボランティアの方も子どもたちと一緒に遊ぶので、これまで家に閉じこもっていた高齢者が外に出るようになったという話も聞いている。地域全体で子育て家庭を支える体制が整備されれば、両親が仕事を持っていても支障なく地域で子育てができる。

【太田委員】地域のいろいろな人を知っているコーディネータがいるといい。

【小野教育長】教育パワーアップ事業では、地区ごとに学習ボランティアにご尽力いただき各種事業を実施しているが、その地域ごとにコーディネータの役割を担う人材がおり、学校のニーズを聞き取るなどご活躍されている。中には、学校評議員と兼務されている方もいる。

【品川市長】そろそろお時間になります。最後になりますが、中高一貫教育のせい、都立高校などでは受験生の奪い合いが起きている。郡山も小中なのか中高なのか考えなくてはいけない。

【小野教育長】湖南高校の状況を県教委に伝え、高大連携の可能性について議論した。少子化が進行する現在において、魅力的な学校づくりは欠かすことのできないテーマであり、特に小規模高等学校については、高大連携など縦の連携が重要となる。学科再編も含め(総合学科)今後の課題であることを県教委に伝えた。

【品川市長】それでは本日は以上とします。

閉会